平成 28 年度 教員免許状更新講習 シラバス

講習 番号	4	講習名	国語科教育に活かす古典文学研究の成果（２）				
担当講師	開催地	時間数	主な受講対象者	受講人数	講習形式	試験方法	
西本 寮子	広島 キャンパス	6時間	中学校・ 高等学校国語科教諭	30人 (最少開催 人数3人)	講義	筆記	
開催日	7月31日（日）		予備日	8月7日（日）			
【到達目標】 日本の古典文学について、中国文学との関係に基づき、その特質と展開を理解している。							
【講習の概要】 伝統的な言語文化の理解に重点を置く学習指導要領の特色を踏まえ、「日本における古典知の形成と展開」について考える。最新の研究成果を紹介しながら、日本文学における中国文学の摂取と定着、展開の様相を、『白氏文集』に焦点を当ててたどってゆく。具体的には『古今集』『竹取物語』『枕草子』『源氏物語』などからいくつかの事例を取り上げ、分析することを通じて、日本文学の特徴と受け継がれる古典知について考察を試みる。							
【講習の内容】 講義 1：王朝人の教養基盤（１）—「月」を見て「ものを思う」こと 平安時代の文学作品を読む際には漢詩文や和歌の知識が欠かせない。漢詩を暗誦してそのまま享受するにとどまらず、和歌の世界にも取り込まれていった。この講義では、新しい息吹としての外来文化・文学摂取の様相を、『白氏文集』に焦点をあてて眺めてみたい。平安時代の知識人の教養の一端を探り、ひらがなの普及とともに広がりを見せた文学的創造力について、『竹取物語』と『古今集』を例として考える。							
講義 2：王朝人の教養基盤（２）—コミュニケーションを支える知識と応用 身につけた知識と教養はどのように活用されたのか。『枕草子』を宮廷女房の記録と捉え、二、三の章段を読み解くことにより、清少納言と男性知識人との会話から読み取れる、権力社会を生き抜く際に活用された教養と応用力について考える。併せて「春は曙」章段を白詩と関わらせて読むことを試みる。							
講義 3：王朝人の教養基盤（３）—『源氏物語』が拓いた世界 『源氏物語』に認められる白詩の摂取の方法は一樣ではない。和歌についても同様である。共有される知識を利用して読み手の想像力をかき立て、ことばによって新たな世界を切り拓いてゆく方法と卓越した創造力について、具体例に基づいて考える。併せて、『源氏物語』を生みだした環境、創作の背景と享受の場のありようを推し量ってみたい。							
講義 4：王朝人の教養基盤（４）—受け継がれる古典知 『源氏物語』の登場はその後の日本文学の展開と教養のあり方に少なからぬ影響を与えた。つくり物語としての享受を越えて、他のジャンルの文学作品に取り込まれ、研究や学びの対象にもなった。この講義では『太平記』を取り上げ、教養書としての側面に着目し、日本文学の世界で受け継がれていった古典知について考えてみたい。							
【備考】 ・試験の際には、講義で配布した資料、ノート、電子辞書を含む辞書の持ち込みを認めます。 ・「国語科教育に活かす古典文学研究の成果（１）」を併せて受講することで理解が一層深まります。可能であれば（１）（２）ともに受講してください。							